



5. Gianotti-Crosti 症候群 Gianotti-Crosti syndrome

同義語：小児丘疹性肢端皮膚炎 (papular acrodermatitis of childhood)

Essence

- 丘疹が下肢に出現，上行して上肢や顔面まで広がる特徴的な経過をとる。
- B 型肝炎ウイルスや EB ウイルスの初感染による。幼児に多い。

症状

生後 6 か月～12 歳の幼小児に好発する。下肢や殿部に対称性に，直径 3～4 mm 程度の淡紅色～暗赤色の扁平丘疹が孤立性に突然多発し，3～4 日で急速に上行して上肢，顔面まで拡大する。とくに両頬部，両上肢伸側に浸潤を伴う紅色丘疹の多発，融合局面は特徴的（図 23.31）。体幹や手掌足底に生じることは少ない。軽度の瘙痒を伴うが，B 型肝炎ウイルスによるものは自覚症状を欠くことが多い。約 1 か月後に軽度の落屑を伴って消退する。表在リンパ節腫脹や肝腫大，肝酵素の上昇ならびに発熱，食欲不振，下痢，風邪症状を認めることがある。

病因

B 型肝炎ウイルス，EB ウイルスのほか，サイトメガロウイルス，コクサッキーウイルス，RS ウイルス，ロタウイルスなどによるものが報告されている。これらが初感染し，アレルギー反応として特徴的な皮疹を生じると考えられている。EB ウイルスによるものの頻度が高い。

治療・経過

通常は自然治癒するため経過観察でよい。B 型肝炎ウイルスによる場合，皮疹が消退した後も HBs 抗原陽性が続けば，そのままキャリアに移行する場合がある。

Gianotti-Crosti 症候群と
Gianotti-Crosti 病



図 23.31① Gianotti-Crosti 症候群 (Gianotti-Crosti syndrome)
両頬部の浸潤を伴う紅色丘疹の多発，融合局面。